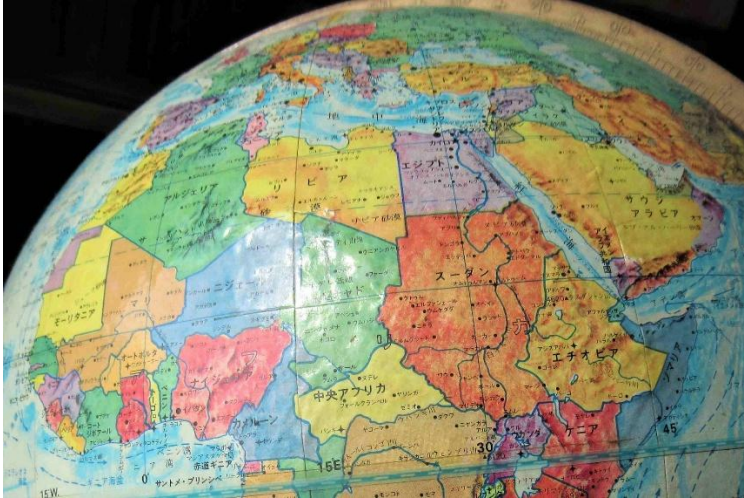


貧困の外的要因と内的要因



外的要因：紛争問題 利害関係 権力者の利権争い

途上国ではさまざまな理由で紛争が発生していることが少なくない。紛争によって住居や職を失い、難民として苦しい生活を強いられる人々が貧困問題に直面する。とくに難民としての生活は職を得る機会が限られるため、さらに貧困が加速しかねない。

政治・歴史問題

アフリカをはじめとした途上国のなかには、かつて植民地だった国もある。そのような国ではいまだ政治機構が未熟な傾向にあり、貧困を改善す

るほどの経済発展にいたらない。子どもに教育が行き届かない原因にもなる。

自然災害・気候変動

地震、洪水、干ばつなどの自然災害は、人命や健康だけではなく経済にも深刻な損失を与える。農地や工業に利用していた土地が被害を受け、経済活動が止まるばかりか、住居を失う人も多い。

最近で記憶に新しいのは、気候変動が原因と言われるパキスタンの洪水だ。国土の3分の1が水没するという甚大な被害が出たこの洪水で、多くの人々が職や住居を失った。また、経済的損失は日本円で約6兆円にものぼると見られている。

貧困が引き起こすさまざまな問題

貧困はさまざまな問題を引き起こす。人権にかかわる問題も多く、啓発と解決のためのアプローチが必要だ。

教育の問題

貧困が原因で教育を受けられない子どもがいる。前述のとおり、貧困から脱け出すための知識やスキルを得にくい環境が作り上げられてしまうのだ。

そればかりか生活のために幼い頃から働かなければならず、児童労働の問題も発生する。自らが教育を受ける機会を得なかったため、教育の重要性を理解していない大人も多い。

内的原因とは「思考の貧困」である。

親や社会からの社会的遺伝子の相続が非常に少ない。使っている言語が貧弱で、言語が発展の工具になっていない。言語が情報伝達の手段として使われている。声、言葉は音であって、形而上学ではない。言葉が思考と結びついて抽象的概念が生み出される。抽象的概念が具体化して新しいものが生産される。